

## 渋沢研究会第 200 回記念例会

# 「大正期の渋沢栄一・再考」シンポジウム

渋沢研究会は、渋沢栄一をさまざまな角度から取り上げる研究会で、1988 年 3 月の第 1 回の例会を皮切りに年間 8 回程度の例会を重ねてきました。例会の通算が 200 回目となる 2014 年 11 月の例会では、シンポジウム形式として「大正期の渋沢栄一・再考」をテーマに、社会公共事業に積極的な関わった大正期の渋沢の諸活動とその成果を再度検証します。事前のお申し込みは不要です。ご興味、ご関心のある方、ふるってご参加下さい。

日程 11 月 29 日(土)午後 13 時開場、13 時 30 分～16 時 50 分(予定)

### シンポテーマ「大正期の渋沢栄一・再考」

司会(+開会あいさつ)

是沢博昭(大妻女子大学)

問題提起

島田昌和(文京学院大学)

日露戦後の国際関係と渋沢

片桐庸夫(前群馬女子大学)

太平洋問題調査会と渋沢

山岡道男(早稲田大学)

渋沢の思想面の活動

見城悌治(千葉大学)

貧困対策と渋沢

山名敦子

休憩 (15 分)

コメント

文化史の視点から

平井雄一郎

国際政治経済の視点から

田村紀之(二松学舎大学)

国内政治状況の視点から

櫻井良樹(麗澤大学)

フロアとの質疑応答

閉会の辞

場所 二松学舎大学 3 号館 3021 教室

地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅下車、2 番出口より徒歩 5 分

靖国通りから九段坂上交差点の信号を渡らずに内堀通りを左折してすぐ左手の建物の 2 階の教室となります。

**\* 次頁地図をご参照下さい。**



会場の3号館は1・2号館とは通りを挟んで反対側ですので、お間違いないようお気をつけ下さい。

お問い合わせ先：できるだけEメールでお願いいたします。

渋沢研究会事務局

大妻女子大学是澤博昭研究室 [hkoresa@otsuma.ac.jp](mailto:hkoresa@otsuma.ac.jp)

渋沢史料館 〒114-0024 東京都北区西ヶ原 2-16-1

電話 03-3910-0005

主催：渋沢研究会【代表：島田昌和(文京学院大学教授)】

協力：公益法人渋沢栄一記念財団・二松学舎大学

## ○なぜ、今、大正期の渋沢栄一を再度考えるのか？

渋沢は1916(大正5)年に76歳となり、第一銀行の頭取も引退し、実業界の第一線から完全に引退しました。引退後に自ら取り組む残された事業として社会・公共事業活動に精力的に取り組みました。これらの活動に対する評価は、渋沢栄一の網羅的な研究書・紹介本においても当然のこととしてその活動の概要が紹介されていますが、社会事業領域、労使関係領域、教育・文化・学術領域、民間外交領域と彼が積極的にかかわった諸領域ごとに活動を紹介することに主眼が置かれてきたにすぎません。さらにその評価は渋沢研究の第一人者土屋喬雄氏の「公共事業や種々の社会事業に努力し、寄与するところが多かった」といった表現に代表されるように、企業家としてここまで社会貢献をした人がいないだけにその行動そのものを高く評価するものがほとんどです。

ところが、実際の活動を見てみると世界的な思想統合を試みた1912年からの帰一協会の活動は1916年以降目立った活動をしなくなっていましたし、日米関係の改善を目指した民間外交の努力もその努力の割に上げた成果は少なかったのです。労使関係の改善を目指した協調会の活動も、彼の生前において労使関係思想の主流となるには程遠い状況でした。もちろんその一方で各種の学校を支援した教育活動や養育院を中心とする社会事業など渋沢がいたからこそという大きな足跡を残した分野もたくさん残されています。

渋沢が何を指して社会に対して行動し、それがいかなる成果を挙げることができたのか、活動の挫折や不十分な成果しか上げられなかったとしたらそれはいかなる理由によるものなのか、渋沢の社会観の限界に起因するものなのか、などの問題意識でこれまでと違って活動の諸領域を横断的に取り上げることで、多大な努力をほめたたえる段階から、社会全体に対するアプローチや思想性そのものにアプローチすることを試みることにします。近代日本の近代経済・近代社会の形成に深く関与した渋沢栄一の思想と行動が、戦中戦後の激動といかにつながるのかを考えることで現代社会における渋沢栄一の意味合いを考える機会と出来ればと考えています。

今回の記念シンポジウムに当たって渋沢栄一が深く関与しながら我々の研究会では若干アプローチの薄かった二松学舎大学の全面的なご協力のもと、論語思想との関与等も積極的に意識して新たな渋沢評価、渋沢理解のスタートの一步としていきます。